

函館市長 西尾正範さま

弥生小学校建て替え計画に対する要望書

2008年7月16日

函館旧市街地の町並みを強く印象付ける建物のひとつに弥生小学校があります。大火が続いた函館は日本の鉄筋コンクリート建築の発祥の地であり、防火建築としても日本が誇る文化遺産であります。

しかし、先日我々が行政担当者から受けた説明で、弥生小学校を西小学校と統合して耐震性を主たる理由で取り壊し、縮小して似て非なる新校舎を建てる説明がなされました。建築物、とりわけ学校建築に安全性が求められるのは当然です。しかしこの建物は函館市景観指定建築物に指定された当市の重要資産であり、わが国の近代建築史上極めて価値ある学校建築でもあります。それを都市計画的に、あるいは建築工学的な深い論議もされないまま解体されて産業廃棄物に姿を変えるのを市民として見過ごすわけに行きません。この計画はあまりにも拙速であり、多くの問題が発生します。私たち元町倶楽部は下記の理由で、計画の撤回と官民総力あげた建物再生プランの策定を要望いたします。

記

1. この計画は函館市の景観保全政策への逆行であり、市民の期待に反するものです。函館市は景観条例を制定し、弥生小学校を含めた私有公有多くの建物を景観形成建築物に指定しました。この良好な景観を背景に市民参加型のイベント開催や、また各種の行政施策が実を結び、大変魅力ある街づくりがなされてきました。こうしたなかでの弥生小学校の取り壊し縮小計画は、長らく市民の協力のもとになされた景観保全に大きな影響を及ぼすものであり、ひいてはこの地区のまちづくりの根幹を揺るがしかねないものと憂慮します。多少古びているとはいえ、優れた都市インフラを生き返らせて有機的にリユースする手法は、時代の趨勢であることはいうまでもなく、弥生小学校の保存活用・再生利用はこの地区に残される旧図書館・公民館・旧ロシア領事館等を今後活かしていくための試金石であると言え、本市のあらたな魅力づくりの第一歩であると考えます。

また、都市経営上の見地からも同時期建築の他の学校校舎の耐震補強もしくは建て替え

の選択、さらには土地利用の観点からも中学校の統廃合をも見据えた検証などが必要と思慮され、十分な市民議論を喚起せぬまま拙速に基本設計の実施を行うことは後に大きな禍根と無駄な出費を産み出すものです。

2. この計画は昨年の市長選で当選した西尾正範市長の公約を否定するものです。「開港 150 年。日本近代の幕開けは函館から始まった。今、わが国が人口減少時代に突入し、地方が衰退していく中、日本の本当のまちづくりの扉を、今一度、この函館からスタートしよう！既存の枠組みにとらわれない、市民が主役の新しい自治を。」（「子ども達の笑顔と未来の会」のパンフレットより）。多くの市民の支持を受けた市長公約に立ち帰り計画を見直すべきです。

3. この計画は生きている建築遺産の破壊であり、同時に生きた教育活動の放棄になります。函館の歴史と文化は函館市民の誇りであり、教育委員会でも伝統的建造物の維持保存活動に力を注いでいます。こうした建築遺産こそ次世代に残すべき大切なもので、学校教育が担う大きな責務と考えます。壊し建てる事により発生する膨大な廃棄物と負債を子供たちに押し付けてはならず、愛情を込め自信と誇りを持って、修理しながら長く使い続ける姿勢こそ子供たちに伝えるべきものです。同じコンクリート建築の保存活用問題を抱えている東京や横浜・下関・小樽ほか、世界の都市の耐火建築物の保存活用研究と情報収集を十分におこない、成果を市民に公開し、官民あげて世界に通用する保存手法を構築すべきです。

4. 弥生小学校解体の論拠として耐震診断結果報告書が提示されました。だが、我々に配布されたものには調査日時、調査機関名、および調査担当者の記載がありません、この診断報告書の全容はとりわけ重要と思われ是非公開くださるよう要望します。また、また巷ではこれとは別の耐震診断結果報告書の存在が伝えられておりますが、その事実関係の公表、また存在するならば、これを是非公開くださるよう要望いたします。

函館市は常に市民との意見交換の場を保障すべきです。また庁内においても自由に誠実な議論が交される雰囲気醸成すべきです。その結果が希望に満ちた明るい函館市を実現すると信じて以上の4点を要望申し上げます。